

伝統を
守りぬいて、
さらに深めていける。



火の国 阿蘇の
恵みのブランド

然
zen
A s o C i t y

大学院で植物学を専攻し、研究生活をつづけていた。
「おもに名もない雑草をテーマとして、野山を調べていました」
その方面で仕事をしていくと決めていた
後藤祐次郎さんにオファーがあった。

祖母の代からつづけてきたまんじゅう店を受け継いでほしい、と。
迷った。が、祖母や母の情熱を間近で見てきた優しい青年は
迷ったすえに、「わかりました」と答える。

そうと決めたからには、もう気持ちを切り替えた。

「代々伝わってきたまんじゅうのたね（麹菌）は、うちだけのものです」
幼児のころから見てきた祖母の「甘酒万十」をずっと

誇りにしていたのだ。ネット販売は急激に普及している。

もちろんその利点は大いに認めるけれど、

「やっぱり、お客さまに出来たてを手渡ししていきたいです」

新しいもの珍しいものばかりがいいものではない。まんじゅうだつて、そう。

伝統を固守し、さらに深めていける一品だと信じている。

後藤万十店 後藤祐次郎

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。